

## 平成30年度第10回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「高浜入りに集う冬の渡り鳥たち」を実施しました。

日 時：平成31年1月19日（土曜日） 午前9時30分から午後2時10分まで

場 所：恋瀬川河口（石岡市高浜）

参加者：33名

結 果： 冬の寒い時期の野外観察会でありましたが、晴天となり、風もほとんどなく天候に恵まれた観察会になりました。石岡市高浜の恋瀬川河口にある愛嬌橋近くでバスを下車しました。バスを下車するとすぐに講師の川崎先生から足元を見てくださいとの声がかかり、足元を見ると、歩道一面に鳥の糞があり、たくさんの粒が落ちていました。この粒は鳥が食べた植物の種で、糞と一緒に排泄されたものであることが説明されました。

下車した所から桜堤駐車場までの間で、アオジなどの小さな鳥を観察しましたが、ヨシ原の中にいるので、野鳥観察に慣れていない参加者には中々見つけられなかったようです。駐車場から堤防の上に上がり、本格的に本日メインとなる水鳥の観察が始まりました。まず目についたカモは黒いくちばしでその先端が黄色く目立つカルガモの群れでした。カモは水面に浮かんでいて、あまり動きがないので、誰にでも双眼鏡で探しやすいかったです。堤防をゆっくり歩き色々なカモを観察する中で、ヨシガモのオスとメスが仲良く並んでいるのが見られ、オスとメスで羽の色が違うことがわかりました。このことについては午後に先生が詳しい話をされました。

午後は城南公民館で、先生からお話をいただきました。まず、見られた鳥を確認した後、カモに冬羽、夏羽があることから話に入りました。メスのカモは一年中同じ羽色をしていますが、オスには冬羽と夏羽があり、夏羽は繁殖羽と呼ぶきれいな羽で、カモの場合は冬に夏羽になり求愛し、春になるとメスと同じに地味な羽に戻るなどが話され、参加者はヨシガモのつがいでもオスとメスの違いを観察したことを思い出し、興味深く話を聞いていました。また、カモの渡りの話では、カモは冬にペアリングをして、春に北のツンドラなどに渡り、夏の間メスは産卵子育てをしています。オスはその間、メスのそばにいないで、オスのグループをつくり生活することが話されました。よくオシドリ夫婦と呼ばれますが、カモのオスは子育てに参加していないことを知りました。

観察した鳥： マガモ、コガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、カルガモ、カイツブリ、ドバト、カワウ、アオサギ、オオバン、ミサゴ、ノスリ、トビ、チョウゲンボウ、キジ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シロハラ、ウグイス、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ヒバリ、以上31種

次に観察会の様子を紹介します。

（腰塚昭温）



モズ



双眼鏡を使つての観察



カルガモ



ヨシガモ



アオサギ



単眼鏡を使つての観察